

再資源化施設

(一般廃棄物中間処理施設)

整備事業について

小松島市
2024.9月作成

資料目次

1. これまでの事業経過	1
2. 新施設の処理方式について	2
3. その他の施設整備について	8
4. 事業予定地について	10
5. 工事用車両通行ルートについて	12
6. 事業スケジュール(案)について	13

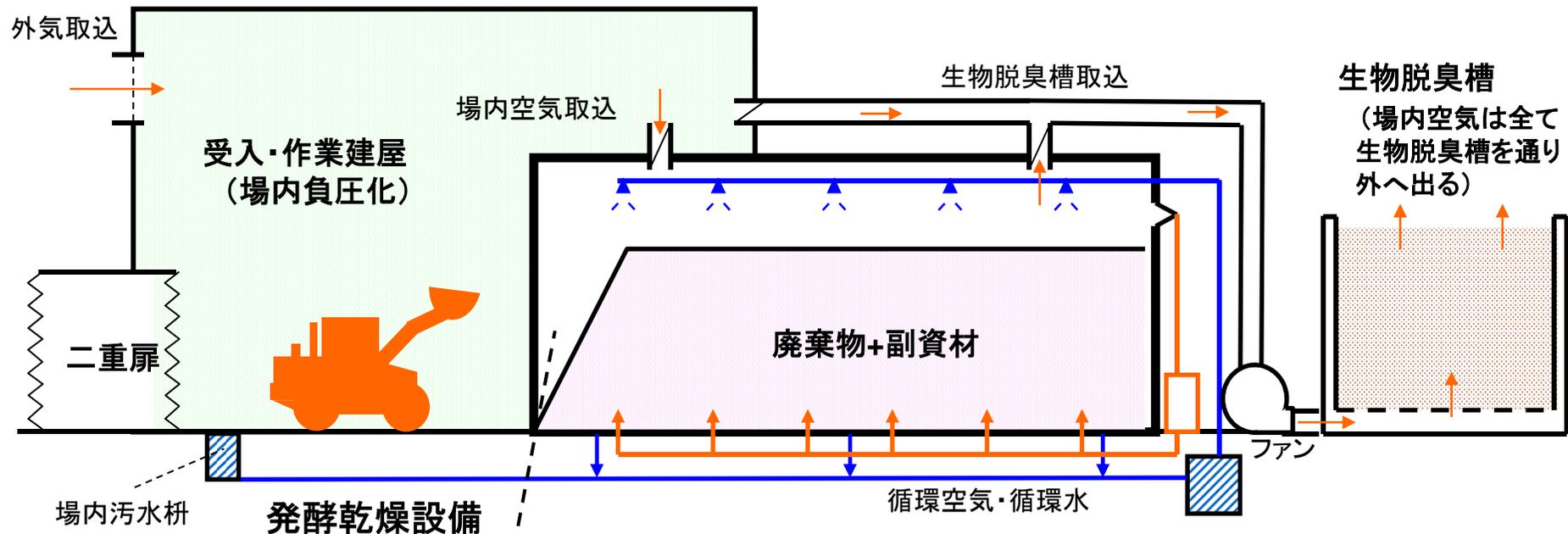
1. これまでの事業経過

- | | |
|---------|---|
| 令和5年 4月 | 第1回小松島市ごみ処理施設整備手法等検討委員会開催 |
| 令和5年 5月 | 第2回小松島市ごみ処理施設整備手法等検討委員会開催
処理方式の選定(好気性発酵乾燥方式) |
| 令和5年 8月 | 第3回小松島市ごみ処理施設整備手法等検討委員会開催
施設整備候補地エリアの選定(芝生町・田野町周辺地域)
勝浦町より一般廃棄物の広域処理に関する要望書提出 |
| 令和5年 9月 | 住民説明会開始(令和5年度中は計6回開催) |
| 令和5年11月 | 第4回小松島市ごみ処理施設整備手法等検討委員会開催 |
| 令和6年 2月 | 小松島市ごみ処理施設整備基本構想策定 |
| 令和6年 3月 | 勝浦町と「一般廃棄物の広域処理に関する協定書」を締結 |
| 令和6年 5月 | 第1回小松島市ごみ処理施設整備基本計画策定会議開催 |
| 令和6年 6月 | 勝浦町との間における一般廃棄物の処理に関する事務の受託
に関する議案を議決 |
| 令和6年 8月 | 第2回小松島市ごみ処理施設整備基本計画策定会議開催
事業予定地の選定(芝生町字西浦) |

2. 新施設の処理方式について

《方式》 好気性発酵乾燥方式(トンネルコンポスト方式)

生ごみや紙、プラスチック等が混在したごみを、密閉発酵槽(バイオトンネル)で発酵させ、微生物が発酵する際の熱と通気を利用して乾燥処理を行う方式。



発酵乾燥設備
コンクリート製・密閉構造・前面気密シャッター
各部センサー(温度・圧力等)

《規模》

- 37t/日(バイオトンネル本数:7本)
- 令和13年度処理対象量:10,488t

《特徴》

- 焼却方式と異なるため、煙やダイオキシン類が発生しない。
- 建物内の空気をバイオフィルターで処理することにより、臭気的大幅な抑制が可能。
- 場内排水はバイオトンネル内では発酵用として循環利用するので処理水が発生しない。
※収集車両の洗車排水や管理棟の排水は浄化槽処理。
- 化石燃料の使用を抑制するので二酸化炭素の排出量を削減。
- 残渣等の発生が少なく、資源化効率が高い。

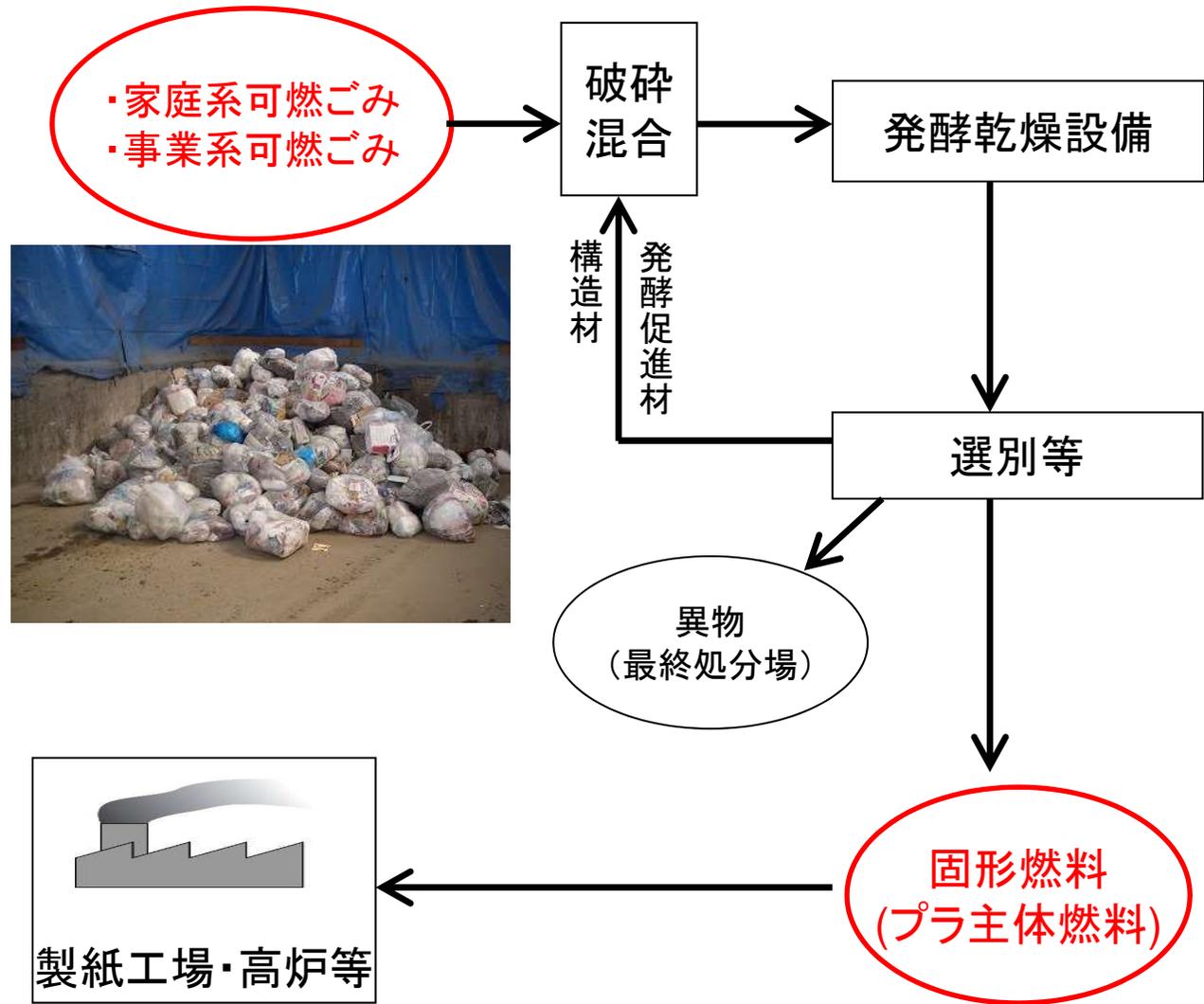
《課題》

- 固形燃料の長期的かつ安定的な受入先の確保が必要。
- 災害廃棄物の処理に制約がある。

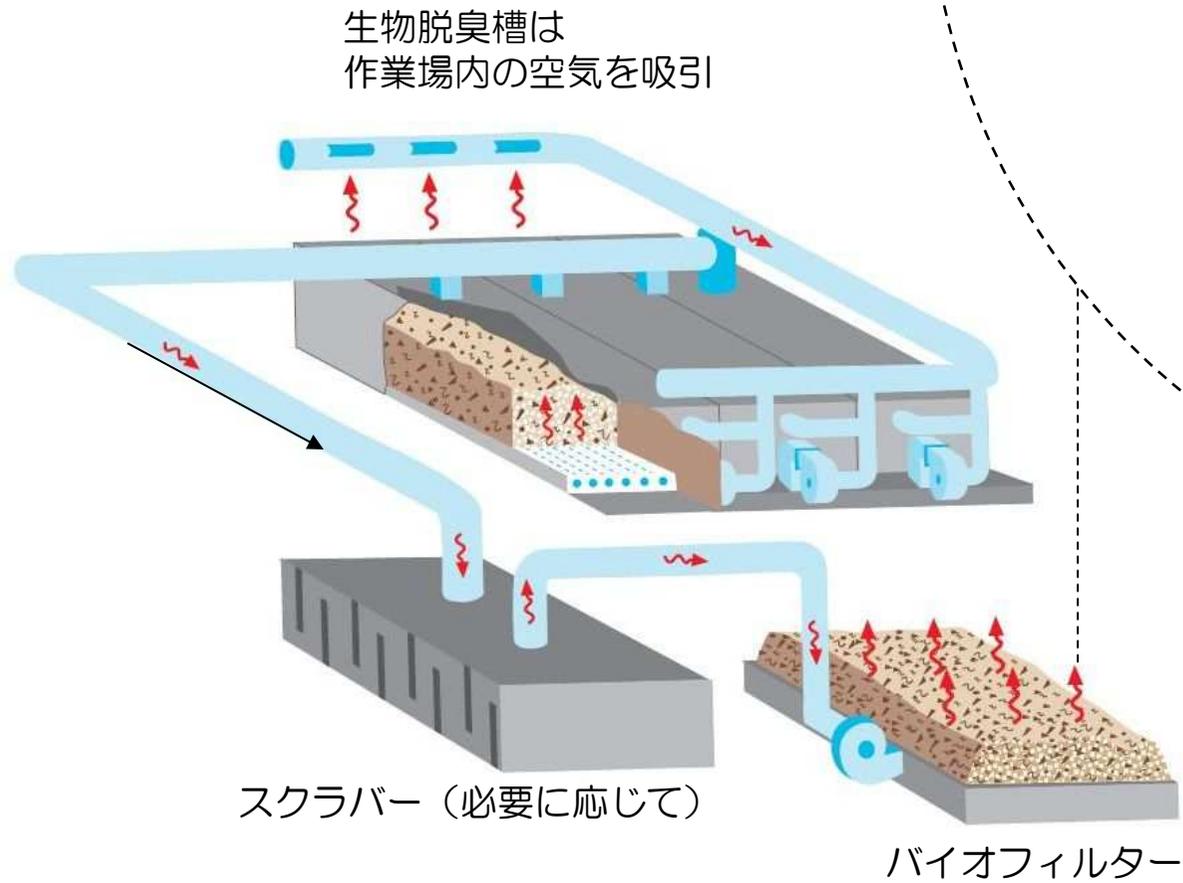
発酵乾燥設備イメージ



処理フロー

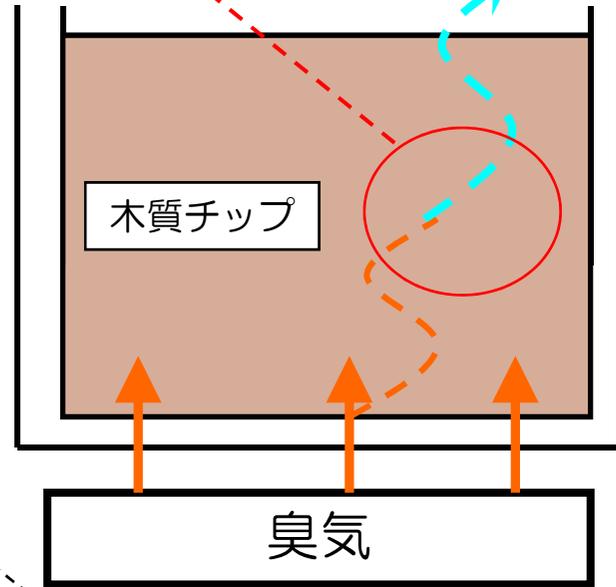


脱臭について 生物脱臭槽



木質チップ層を通して
微生物の力で分解

脱臭されて
大気放出



固形燃料の流通

<サーマルリサイクル>



注1) 固形燃料化については、新施設で成形を行うか、原料として出荷し、他の燃料化施設で成形を行うか検討中です。

<ケミカルリサイクル>



注2) この流通ルートは、現在、プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（プラ新法）の再商品化計画認定事業として協議中です。

3. その他の施設整備について

○リサイクルセンター 粗大ごみの破碎や空き缶、びん等の選別を行うことで作業の効率化や資源物回収量の増加を図ることができる。

《規模》

9t/日

令和13年度処理対象量:1,911t

リサイクルセンターにおける設備例



出典:エコパーク阿南ホームページ

○環境学習・コミュニケーションスペース

「地域と共生する施設」を目指している。地域との共生を目指す上で、本施設を地域のシンボルとして整備するために下記に示す環境学習、コミュニケーションスペース等の機能を有する施設とする。

環境学習・コミュニケーションスペース例



ごみ処理工程の見学コース

出典:国崎クリーンセンター啓発施設ゆめほたる

4. 事業予定地について

再資源化施設
(好気性発酵乾燥方式＋
マテリアルリサイクル推進施設)

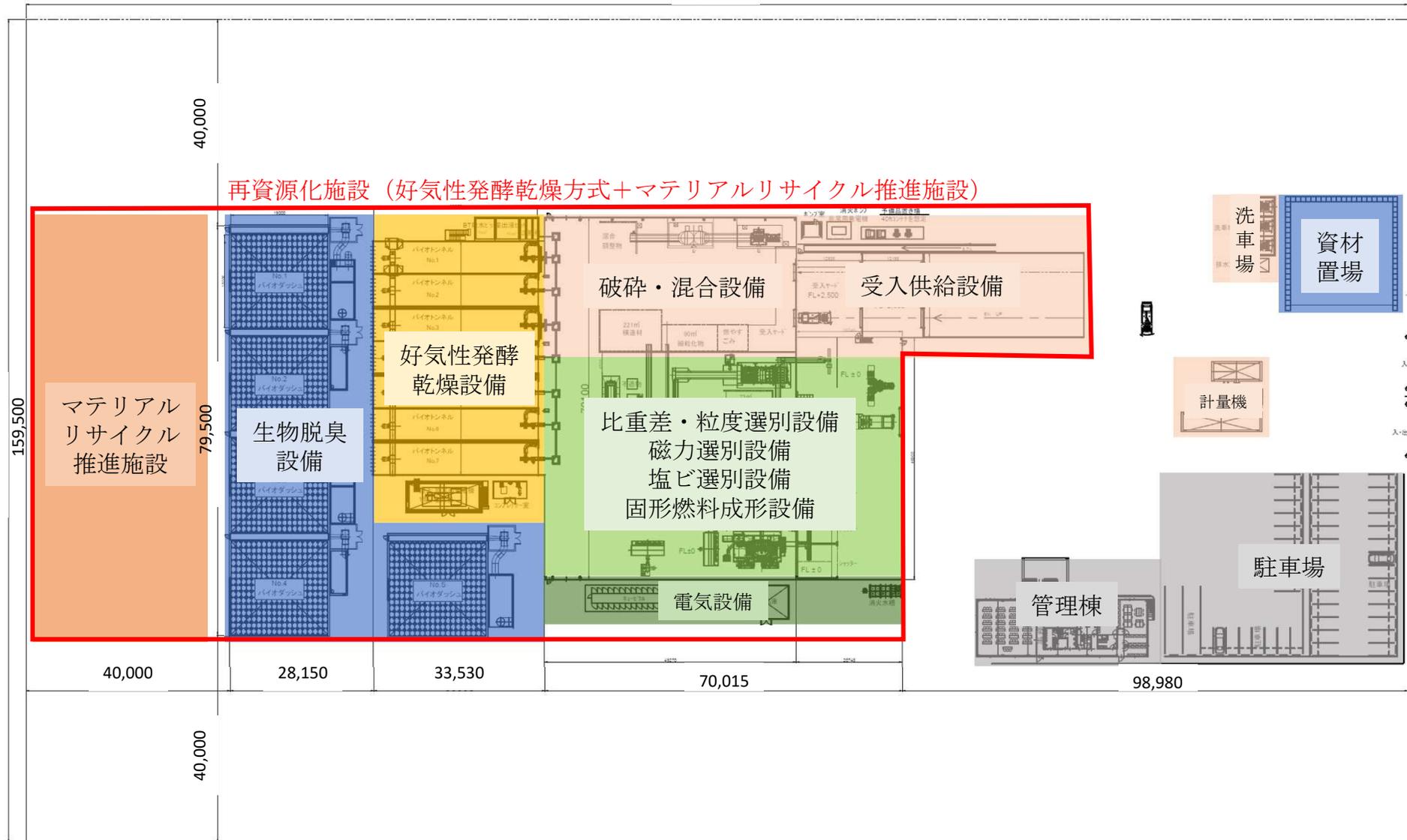
住 所	徳島県小松島市芝生町西 浦 地内
建築面積	約14,000㎡ (1.4ha)
用地面積	約24,000㎡ (2.4ha)
その他施設	管理棟、計量棟、駐車場、 洗車場、資材置き場等



施設配置計画 (案)

270,675

(単位: mm)



5. 工事用車両通行ルートについて



6. 事業スケジュール(案)について

地権者や地域住民のご理解・ご協力を得る中で、最短で令和12年度中の施設稼働をめざします。

項目	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)	令和11年度 (2029)	令和12年度 (2030)
住民説明会	→						
施設整備基本計画	→						
生活環境影響調査	→						
用地測量・地質調査		→					
道路設計		→					
道路工事			→				
施設・造成設計		→					
造成工事				→			
建設工事				→			
稼働開始							→

ご清聴ありがとうございました。